

7月11日(土)～20日(祝)は 夏の交通安全市民運動

この時期は、暑さやレジャーの疲れから運転者の注意力が散漫になりがちです。また、屋外で遊ぶ子どもたちや、夕涼みなどで外出する高齢者も増えるため、交通事故に巻き込まれる危険が高まります。さらに、夏特有の解放感や各種の祭礼などで飲酒の機会が増えるため、「飲酒運転は犯罪。絶対にしない!」という再認識が必要です。市民一人ひとりが安全運転や安全行動の実践を通じて交通事故の防止に努めましょう。

■運動の重点項目

- 子どもと高齢者を交通事故から守ろう
- すべての座席でシートベルトとチャイルドシートを正しく着用しよう
- 飲酒運転を根絶しよう

問い合わせ: 安全生活課 (☎51・2550)

7月は「社会を明るくする運動」 強調月間です

犯罪や非行の防止と、罪を犯した人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場で力を合わせて、犯罪や非行のない明るい地域社会を築きましょう。

問い合わせ: 福祉政策課 (☎51・2369)

やまびこ号運行7周年& 利用者5万人達成記念イベント

とき: 7月1日(水)～31日(金) 内容: 期間中、コミュニティバス東部東山線「やまびこ号」を利用すると、車内の抽選で東山藍染クラブによる手づくり「藍染ハンドタオル (250枚限定)」をプレゼントします (落選した方にも粗品あり) 問い合わせ: 都市交通課 (☎51・2620)

情報あれこれ

ため池での事故をなくそう

ため池は大変危険ですので、子どもだけで水辺に近づかないようにしましょう。また、池の中には絶対に入らないでください。

問い合わせ: 農地整備課 (☎51・2495)



ため池での事故に注意



薬物乱用は「ダメ。ゼツタイ。」

情報ピックアップ

薬物乱用は、薬物を乱用する一部の人のだけの問題ではありません。多くの人々によって薬物乱用を許さない社会環境をつくるのが大切です。薬物乱用防止について、家族や友人とも話し合ってみましょう。

■薬物乱用とは

薬物乱用とは、治療や検査に使う医薬品の目的外使用、用法・用量を守らない使用または、医療目的にない薬品の不正使用を言います。乱用されるおそれのある薬物には、麻薬・覚せい剤、大麻、シンナー、危険ドラッグなどがあり、1回使用しただけでも乱用になります。

■「危険ドラッグ」にNO!

ハーブやアロマオイル、バスソルトやビデオクリナーなど、一見すると人体に無害な製品を装って、麻薬や覚せい剤以上に有害かもしれない薬物が、「合法」や「脱法」として売られています。これらの危険ドラッグを吸ったり飲んだりしたことで、意識障害、嘔吐、けいれん、呼吸困難などを起こして、重体に陥る事件や死亡する事件が起きています。さらに、使った本人が苦しむだけでなく、幻覚や興奮のために他人に暴



出典: 政府広報オンライン短編マンガ「危険ドラッグの本当の怖さを知っていますか?」(<http://www.gov-online.go.jp/tokusyu/drug/>)

力をふるったり、車を運転して暴走し、ひき逃げや死亡事故などの重大な犯罪を引き起こしたりしたケースもあります。自分の健康と未来を守るためにも、いかなる薬物乱用にも手を染めないでください。危険ドラッグは「買わない!」「使わない!」「かかわらない!」ことが肝心です。

問い合わせ

健康政策課 (☎39・9101) <http://www.city-toyohashi.jp/6641.htm>

楽しむ・学ぶ

支援・医療

相

談

募 集

情報あれこれ



「家族みんなの家事・育児」フォトコンテストの入賞者が決まりました

「家族みんなの家事・育児」フォトコンテストの作品募集に37点の応募があり、以下の方が入賞しました(敬称略)。作品は7月上旬から男女共同参画センター「パルモ」(神野ふ頭町ライフポートとよはし内)で展示します。



最優秀賞「はい!どーぞ!」

最優秀賞: 鈴木 誉也
優秀賞: 稲垣哲哉、小林 孝子、杉浦正倫
問い合わせ: 市民協働推進課 (☎51・2188)



感染症を媒介します 蚊に注意しましょう!

問い合わせ

健康政策課(☎39・9104)

蚊はデング熱をはじめ、マラリアや日本脳炎などの感染症を媒介することが知られています。デング熱は、昨年約70年ぶりに海外渡航歴のない患者に発生し、国内感染が認められました。蚊が多い場所では、できるだけ肌を露出しないよう長袖・長ズボンを着用するほか、以下の点に注意しましょう。

①虫よけスプレースの使用

使用上の注意を守り、ムラなく塗りましょう。効果を持続させるために一定時間経過したら再度塗りましょう。

②室内に入れない工夫

ドアや窓の開閉頻度を減らし、網戸や蚊取り線香を使用しましょう。雑草を刈る、樹木を剪定し風通しを良くするなど蚊の棲みかをなくするのも効果的です。

③幼虫(ボウフラ)の駆除

空き缶や古タイヤなど水のたまり場となるものは撤去するか、雨の当たらないところに置き、ペット用の水や鉢植えの皿の水は放置しないようにしましょう。



夏の食中毒予防について

夏は気温や湿度が高く、食中毒の原因となる細菌が増えやすい時期です。特に、キャンプやバーベキューなど、屋外で調理や飲食をする場合は、室内に比べて食材の温度管理が難しく、食中毒の危険性が高まります。次の点に注意しましょう。

①肉類

肉類は大腸菌やカンピロバクター(※)などの細菌に汚染されている危険性があります。生肉に触れるときは調理用のトングや箸を使い、食べる箸とは分けましょう。新鮮なものであっても生食は避け、中心部までしっかり加熱しましょう。

※カンピロバクターは、鶏や家畜などの消化管に存在し、鶏の刺身やたたき、牛レバーなどから検出されています。ここから原因とする食中毒も多く報告されています

②魚介類

魚介類は腸炎ヒブリーオなどの食中毒細菌に汚染されている危険性があります。中心部までしっかり加熱して食べましょう。また、魚介類はしっかりと冷蔵しないと食中毒の原因となる化学物質(ヒスタミン)が生成されてしまうことがあります。一度生成されたヒスタミンは加熱しても分解されません。魚介類を運搬・保管するときは、氷や保冷剤でしっかりと冷蔵しましょう。

野菜類も加熱して食べた方が安心です。加熱しない野菜類は、肉や魚から汚染されないように分けて運搬・保管し、清潔な水で洗浄して食べましょう。また、有毒植物を山菜などと間違えて食べてしまう食中毒も多く発生しています。野生植物を素人判断で食べないようにしましょう。

清潔な水でしっかりと手を洗ってから調理を行いましょう。使い捨て手袋やラップの利用も効果的です。

③野菜類

野菜類も加熱して食べた方が安心です。加熱しない野菜類は、肉や魚から汚染されないように分けて運搬・保管し、清潔な水で洗浄して食べましょう。また、有毒植物を山菜などと間違えて食べてしまう食中毒も多く発生しています。野生植物を素人判断で食べないようにしましょう。

④水

一見綺麗な水でも、沢水や湧水には大腸菌やウィルスなどの食中毒細菌などがいることがあります。食品や器具の洗浄などには、水道水を使用しましょう。

⑤調理する人

人間の手には、さまざまな細菌が付着しています。不潔な手で調理作業を行うと食中毒の原因となります。清

問い合わせ

生活衛生課(☎39・9124)

■監視指導の結果を公表しています

市では、食の安全への取り組みの一環として、市内の食品の製造・加工、流通などの現状や食品衛生上の問題の発生状況を分析し、その実情を勘案した「食品衛生監視指導計画」を毎年度定めています。この計画に基づく平成26年度監視指導の実施結果を次のとおり公表していますので、ご覧ください。

閲覧場所 保健所生活衛生課(中野町字中原「ほいっく」内)、市役所じょうほうひろば(東館1階)、ホームページ(<http://www.city.toyohashi.lg.jp/2776.htm>)など

